

令和2年度 事業報告

本学園の主要財源は、学生生徒等納付金収入及び国・地方公共団体からの補助金収入だが、学生生徒等納付金収入の安定化には、確実な学生確保が重要となっている。また、学生生徒等納付金収入以外に、各種補助金及び外部資金の導入も重要であると考え、特別補助金、受託研究事業、文部科学省の競争的研究費、教育研究振興募金事業等の外部資金の獲得に積極的に取り組み、複数の外部資金を獲得した。

北海道情報大学においては、近年のAIやICTに関する社会的な関心の高まりと本学の高度ITプロフェッショナル人材育成に関する取り組みが認知され、昨年度に続き令和2年度も入学志願が順調に推移し、令和3年4月の入学者数は493名(昨年比+33名)と定員(420名)を確保することができた。

また、通信教育部においても、専門学校と併修の正科生Bが各教育センターとの連携の推進により、令和3年4月の入学者数は663名(昨年比+99名)と増加した。

北海道情報専門学校においては、情報系の人気向上から希望者が増加し、令和3年4月の入学者数は389名(昨年比+57名)と定員(360名)を確保することができた。また、ICT教育の伝統と実績を有する専門学校として、「産・学・研」連携による最新技術・最先端の教育により、情報処理技術者試験で全道一位の合格実績を上げることができた。

就職実績は北海道情報大学が94.9%、北海道情報専門学校が92.9%と、両校ともに高い就職率となった。

令和2年度に本学園が実施した主な事業は、以下のとおりである。

(1) 北海道情報大学(HIU)

- ① 建学の理念である「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を継承しつつ、「Quality First」をミッションとして策定した「HIU Vision2020」を反映した「第2期中期目標・中期計画(2016年度～2020年度)」の最終年度として、令和2年度計画を確実に推進した。
また、新たに策定した「HIU Vision2025」を反映した「第3期中期目標・中期計画(2021年度～2025年度)」をもとに、令和3年度(2021年度)から事業を推進する。
- ② 入試広報活動においては、コロナ禍により例年通りには実施できない対面イベントに代わり、Webオープンキャンパスやオンライン相談会を実施して、HIUらしさをアピールしながら広報するとともに、感染拡大が落ち着いた時期には積極的に高校訪問などを集中して行うようにして、オンラインと対面のハイブリッドでの広報活動を展開した。

- ③ 大学の認知度を向上させるための大学広報活動に関しては、文部科学省から採択された私立大学研究ブランディング事業(2018年度～2020年度)と組み合わせ実施した。本年度は対外向けイベントの多くが中止となったが、ホームページでの動画コンテンツを増やしたり、札幌駅前商業施設内で大型広告を出すなどして、従来とは形を変えてHIUのアピールを行った。
- ④ コロナ禍で対面授業が実施できない状況となったが、本学がこれまで培ってきた遠隔教育の技術や知識、ICTを活用した教育手法のノウハウを活かして、年度当初よりオンライン授業に切り替えて、学生の学びを継続させた。また、インフラとしての通信回線やサーバの増強などの対応を行い、スムーズなオンライン授業実現に努めた。
- ⑤ 学習ポータルサイト(POLITE)とFD支援システム(CANVAS)等の教育システムの改善や教室のAV設備の最新鋭化を行った。また、新入生全員へのタブレットPCの導入(貸与)、コンピュータ実習室の整備など、学内のICT環境をさらに充実させ、最先端の「情報」を学ぶ大学として他大学との差別化を図った。
- ⑥ コロナ禍において「感染リスクが低い学びのスタイル」として通信教育が社会的に注目された。特に本学の通信教育部においては、以前から学びの完全オンライン化を目指して、eラーニングの充実やWeb出願に加え、科目試験の完全オンライン化を進めてきた。こうしたDX(Digital Transformation/デジタルトランスフォーメーション)の取組をアピールした結果も相まって、入学者数を大きく伸ばすことができた。(正科生A等秋入学：362名(昨年比+78名)、正科生B：663名(昨年比+99名))
- ⑦ 第2期校舎保全5ヵ年計画の最終年として、厚生棟及び校舎棟の屋上防水工事や外灯の整備などを実施した。また、令和3年度から始まる第3期校舎保全5ヵ年計画を策定した。
- ⑧ スポーツ振興を視野に入れたグラウンドの整備、教室内の教卓・教壇・黒板の更新など、大学全体での教育環境の整備を行った。
- ⑨ コロナ禍で例年通りに実施できなかった学校行事については、中止またはオンラインへの代替え策を講じて実施した。中止した行事は、入学式、就職企業への大学説明会(東京、札幌)、海外留学、体育祭等である。また、大学祭(蒼天祭)、一部の海外留学(中国・大連東軟信息学院)、メディアデザイン展(卒業作品発表会)、学位記授与式等についてはオンラインで試行開催した。

(2) 北海道情報専門学校(HCS)

- ① 募集活動では、『Quality First』を念頭に、安定した学生確保を実現するために、高い実績をあげている「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」を広報の三本柱として展開した。
- ② 「専門学校だからできるコト」「HCSだからできるコト」を広報媒体に強く展開し、専門学校の魅力向上及び他校との違いを明確化して広報を行った結果、389名(昨年比+57名)の入学者数を獲得した。
- ③ 情報処理技術者試験(国家試験)において、全道の専門学校合格者数に対する占有率がいずれの試験でも95%以上(情報処理安全確保支援士試験:100%、応用情報技術者試験:95.2%)を占め、全道一位の合格実績を上げるとともに、合格者数が専門学校の中で全国一位を達成した。
- ④ コロナ禍での就職活動は、企業によるオンライン説明会・採用面接等を開催誘導することにより大学併修科(4年制)は11月末に100%内定を達成した。HCS全体の就職実績としては、92.9%の内定率を上げることができた。
- ⑤ 平成30年度に整備した「クリエイタールーム」を利用した制作物の質が向上し、福岡ゲーム産業振興機構(GFF、九州大学、福岡市)主催のコンテストで1,821作品中のトップとなる大賞を受賞した。
- ⑥ 第2期校舎保全5ヵ年計画の最終年として、2号館の共用部・教室床改修工事を実施した。また、HIUと同様に、翌年度から始まる第3期校舎保全5ヵ年計画を策定した。
- ⑦ 昨年度新設した「AI-ZONE(AI実習室)」を前面に打ち出し、「AIエンジニア・SEコース」のコース別授業を開始して、最新かつ高度なICT技術教育を行う学校であることを広く周知した結果、特にシステム開発系学科の入学者が198名(昨年比+31名)と増加した。
- ⑧ 本校舎3教室に146台の最新パソコンの導入、本校舎に無線型ネットワーク環境の導入を行い、実践教育環境の整備を行った。

以上